

中長期財政収支見込について

平成28年度～平成37年度
(一般会計)

① 中長期財政収支見込について

- 堺市マスタープランに基づく平成23～32年度までの収支見込みを試算し、平成23年2月に公表（平成26年2月更新）
- 社会経済情勢の変化や、堺市マスタープラン後期実施計画の策定、及び掲載事業等の進捗状況、また、平成28年度当初予算案を反映して収支見込を更新

国

- 消費税率の改正を含めた税制改正
- 中長期経済財政に関する試算の更新
- 1億総活躍社会の実現に向けた取組の推進

堺市

- 堺市マスタープラン後期実施計画の策定
- 堺市マスタープラン掲載事業等の進捗状況を反映
- 社会経済情勢や税制改正などを反映
- 府費負担教職員に係る権限と財源の移譲を反映

② 試算の結果

- 短期的には普通建設事業の集中等により厳しい財政状況
- 中・長期的には、普通建設事業の減少や、市税及び地方譲与税・交付金などの増加により、収支の均衡を確保

収支の状況

- 平成31年度まで赤字 ⇒ 基金からの財源充当
- 平成32年度以降黒字 ⇒ 基金への積立

市債残高の推移

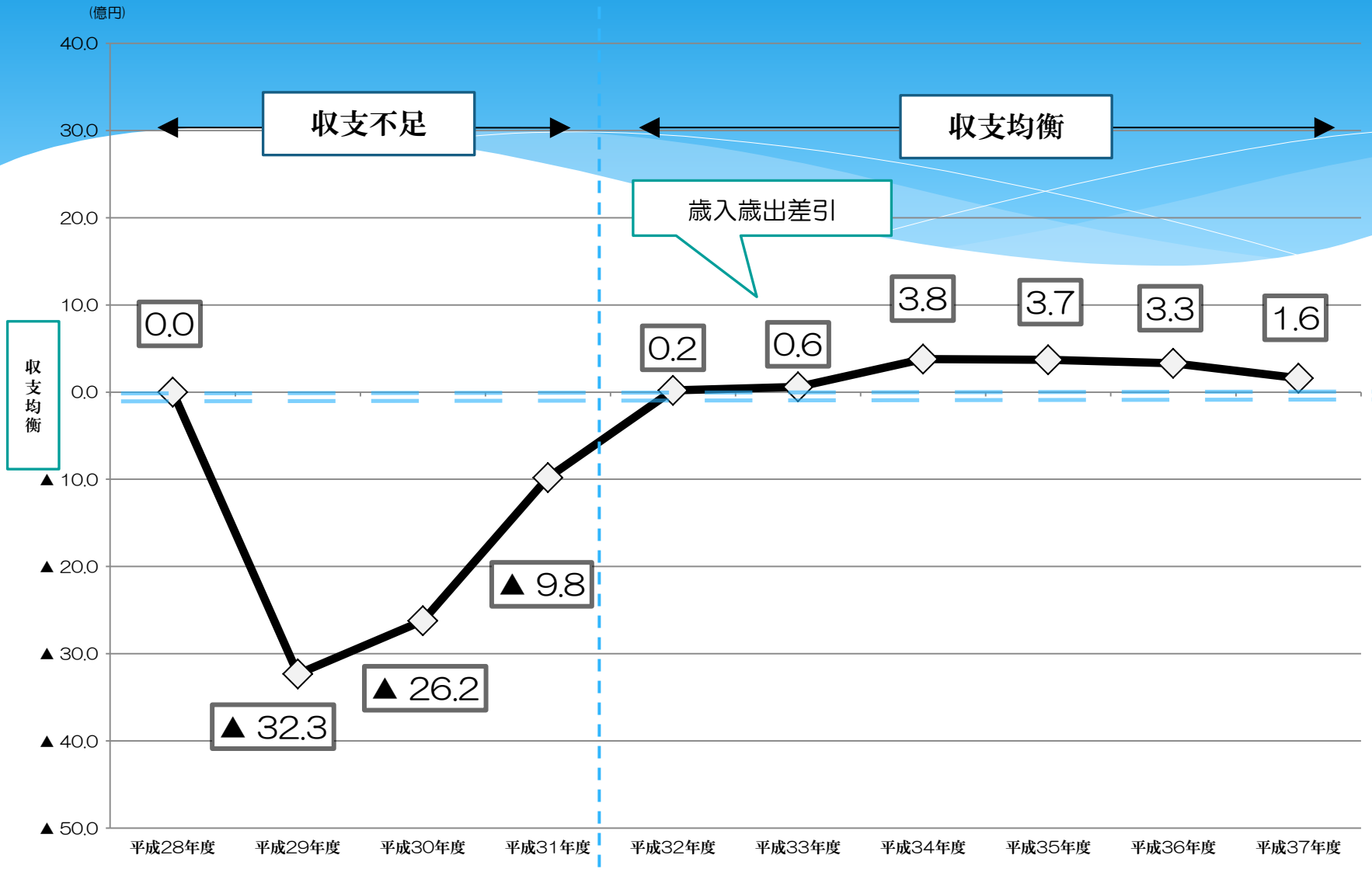
※ 臨時財政対策債を除く

- 平成30年度にピークを迎え、以降、毎年減少

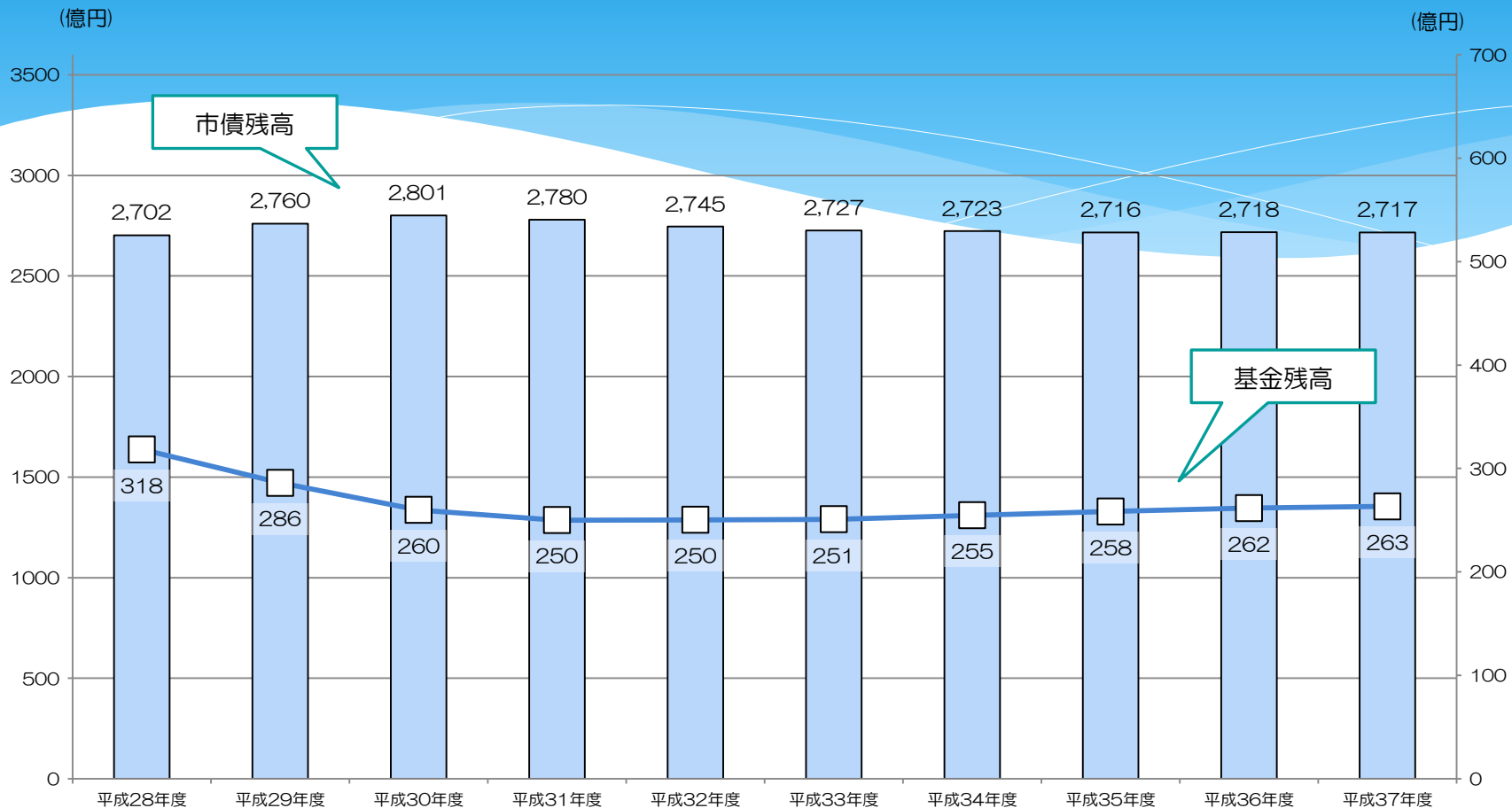
基金残高の推移

- 平成31年度まで減少を続けるが、以降、緩やかに増加

財政収支の推移



市債及び基金残高の推移 (臨時財政対策債を除く)



※ 平成28年度は予算ベースでの取り崩しを反映

財政収支見込（平成28年度～平成37年度）

（単位 億円）

	H28【予算】		H29		H30		H31		H32		H33		H34		H35		H36		H37	
	事業費	一般財源	事業費	一般財源	事業費	一般財源	事業費	一般財源	事業費	一般財源	事業費	一般財源	事業費	一般財源	事業費	一般財源	事業費	一般財源	事業費	一般財源
市税	1,307.6	1,307.6	1,450.2	1,450.2	1,429.7	1,429.7	1,442.8	1,442.8	1,459.4	1,459.4	1,458.6	1,458.6	1,485.7	1,485.7	1,503.4	1,503.4	1,494.0	1,494.0	1,499.1	1,499.1
地方交付税	200.0	200.0	273.1	273.1	270.4	270.4	271.5	271.5	248.5	248.5	255.6	255.6	243.4	243.4	234.7	234.7	243.5	243.5	231.9	231.9
市債	511.9	217.0	569.0	302.2	544.3	302.8	498.0	316.3	459.8	305.7	493.4	327.8	489.9	327.2	488.6	327.1	506.4	340.7	498.9	337.5
その他	1,836.5	343.7	1,702.6	362.6	1,777.8	389.6	1,799.1	395.3	1,777.0	404.5	1,770.3	400.8	1,788.6	386.4	1,809.0	388.9	1,842.0	392.3	1,880.8	413.7
歳入合計	3,856.0	2,068.3	3,994.9	2,388.1	4,022.2	2,392.5	4,011.4	2,425.9	3,944.7	2,418.1	3,977.9	2,442.8	4,007.6	2,442.7	4,035.7	2,454.1	4,085.9	2,470.5	4,110.7	2,482.2
人件費	506.6	463.1	856.6	729.4	849.6	721.3	836.7	713.1	831.5	707.9	827.6	703.9	825.5	702.0	817.9	694.4	816.2	692.8	815.9	692.3
うち退職手当	37.1	32.1	71.5	68.0	68.6	63.6	57.6	57.6	52.5	52.5	48.4	48.4	46.8	46.8	39.1	39.1	37.6	37.6	36.4	36.4
うち退職手当を除くもの	469.5	431.0	785.1	661.4	781.0	657.7	779.1	655.5	779.0	655.4	779.2	655.5	778.7	655.2	778.8	655.3	778.6	655.2	779.5	655.9
扶助費	1,219.6	357.9	1,226.4	377.1	1,262.2	388.3	1,295.8	398.7	1,315.6	404.3	1,335.2	409.9	1,356.5	415.9	1,378.5	422.2	1,402.4	429.0	1,426.0	435.8
公債費	318.7	304.2	355.4	334.2	360.4	339.5	376.9	355.9	378.8	361.7	389.9	378.8	386.5	375.4	400.2	389.1	402.6	391.5	412.5	401.3
普通建設事業費	673.2	56.3	492.7	101.3	485.1	96.5	408.1	86.7	313.7	67.4	322.9	73.7	329.7	69.9	324.4	65.5	333.9	62.8	326.6	62.3
その他	1,137.9	886.8	1,096.1	878.4	1,091.1	873.1	1,103.7	881.3	1,104.9	876.6	1,101.7	875.9	1,105.6	875.7	1,111.0	879.2	1,127.5	891.1	1,128.1	888.9
歳出合計	3,856.0	2,068.3	4,027.2	2,420.4	4,048.4	2,418.7	4,021.2	2,435.7	3,944.5	2,417.9	3,977.3	2,442.2	4,003.8	2,438.9	4,032.0	2,450.4	4,082.6	2,467.2	4,109.1	2,480.6
歳入歳出差引額	0.0		▲ 32.3		▲ 26.2		▲ 9.8		0.2		0.6		3.8		3.7		3.3		1.6	
基金残高（定額運用除く） （歳入歳出差引額調整後）	318.4		286.1		259.9		250.1		250.3		250.9		254.7		258.4		261.7		263.3	
市債残高 （臨財債除く）	2,702.0		2,759.7		2,800.5		2,779.5		2,745.2		2,726.6		2,723.1		2,716.3		2,717.7		2,716.8	
市債残高 （普通会計臨財債除く）	2,615.1		2,693.8		2,744.1		2,729.9		2,697.5		2,679.6		2,683.6		2,686.4		2,697.3		2,705.8	
将来負担比率	33.1		34.6		39.0		39.2		38.4		37.9		38.0		38.0		38.5		38.9	
実質公債費比率	6.2		6.3		6.3		6.3		6.8		7.2		7.0		7.1		7.0		7.3	

財政指標等は決算にあわせて作成（基金残高は普通会計ベース、市債残高は前回と同じ一般会計ベースと普通会計ベースを併記、実質公債費比率、将来負担比率は全会計ベース）

試算の前提

全体	国の試算との関係	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中長期の経済財政に関する試算（内閣府 平成27年7月22日）を参考に、本市における中長期財政収支見込みを推計 ・ 国の試算では物価上昇率などを加味した上で、歳出の伸びを実質横ばいとしていることから、賃金や物価上昇の影響は横ばいとする 	歳出	人件費	<ul style="list-style-type: none"> ・ 要員管理方針の見込みなどを加味して推計 ・ 府費負担教職員の移譲に伴う所要増を見込む ・ 国勢調査、選挙などの臨時的な増減は除いて推計
				扶助費	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現時点の社会保障制度において、過去実績などにより推計
				公債費	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既発行分に今後の発行予定分を加味して推計 ・ 市場公募債の満期一括に伴うルール分の積立金は公債費にて推計
				普通建設事業費	<p><試算における主な事業 H28-H37></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 阪神高速大和川線事業 事業費 約320億円 ・ 連続立体交差（南海本線）事業 事業費 約290億円 ・ 市営住宅等建替・改修事業 事業費 約270億円 ・ 橋りょう耐震・長寿命化事業 事業費 約190億円 ・ 堺市民芸術文化ホール整備事業 事業費 約120億円
歳入	市税等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現時点で予定されている税制改正の影響額を反映 ・ 平成29年4月に予定されている消費税率の改正を反映（個人市民税） ・ 納税義務者がマスタープランの人口推計におけるパターン①で推移すると仮定。（社会増減を0と見込む） ・ 給与の動向は消費者物価の上昇率を加味して推計 ・ 府費負担教職員の税源移譲分（府民税所得割の2%）を見込む <p>なお、府費負担教職員の所要増は、国庫負担と税源移譲分、地方交付税で全て賄えるものと見込む</p> <p>（法人市民税）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 名目GDP成長率を加味して推計 <p>（固定資産税）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 固定資産税のうち地価は横ばいとし、家屋は大口分を含めた新增築を、償却は企業立地分の設備更新等を推計 	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 過去の実績等を考慮し推計 	
	地方交付税	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成28年度当初予算をベースに推計 ・ 市税・税外収入の対前年度増減を加味して推計 ・ 臨時財政対策債は平成27年度交付額の割合から按分して推計 ・ 臨時財政対策債の元利償還分は同額で措置されるものとして推計 ・ 府費負担教職員の移譲に伴う地方交付税算入分を見込む 			
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 過去実績などに基づき推計 			

※普通建設事業は落札率や事業進捗などを加味し、概算費用にて推計
また、平成27年度からの繰越予算は含まない

③ 財政運営の健全性

- 市債残高は増加するものの、健全化判断比率などは早期健全化基準を大幅に下回る水準で推移

実質公債費比率

将来負担比率

- 普通建設事業の集中など市債残高の増加により、短期的に健全化判断比率は上昇するものの、政令市でもトップクラスの水準で推移する。

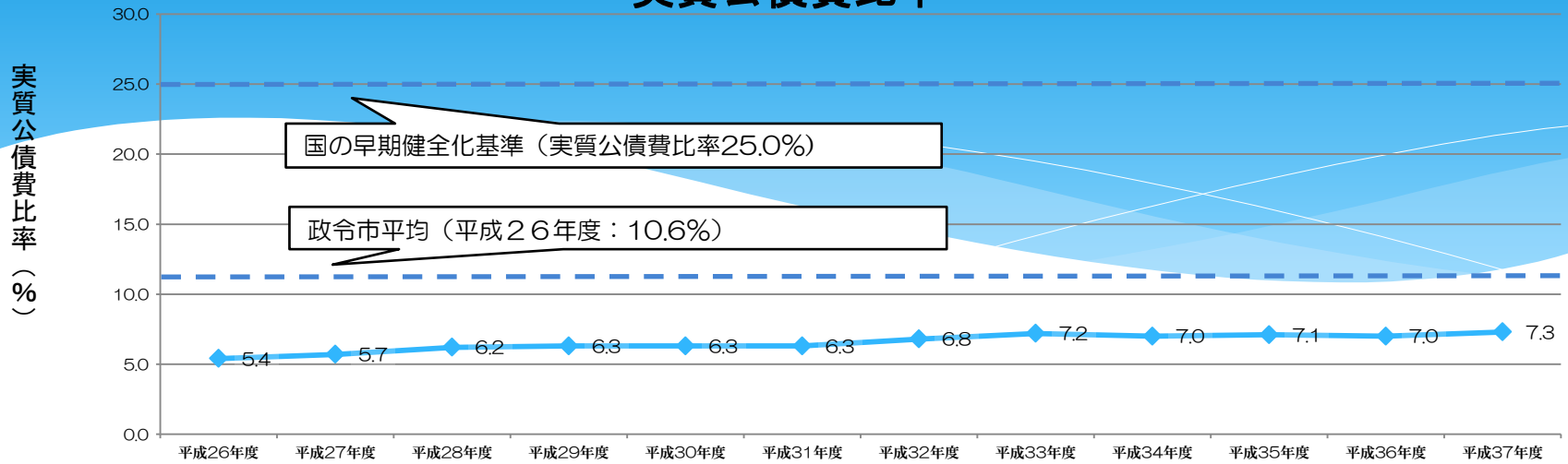


財政運営の健全性を確保

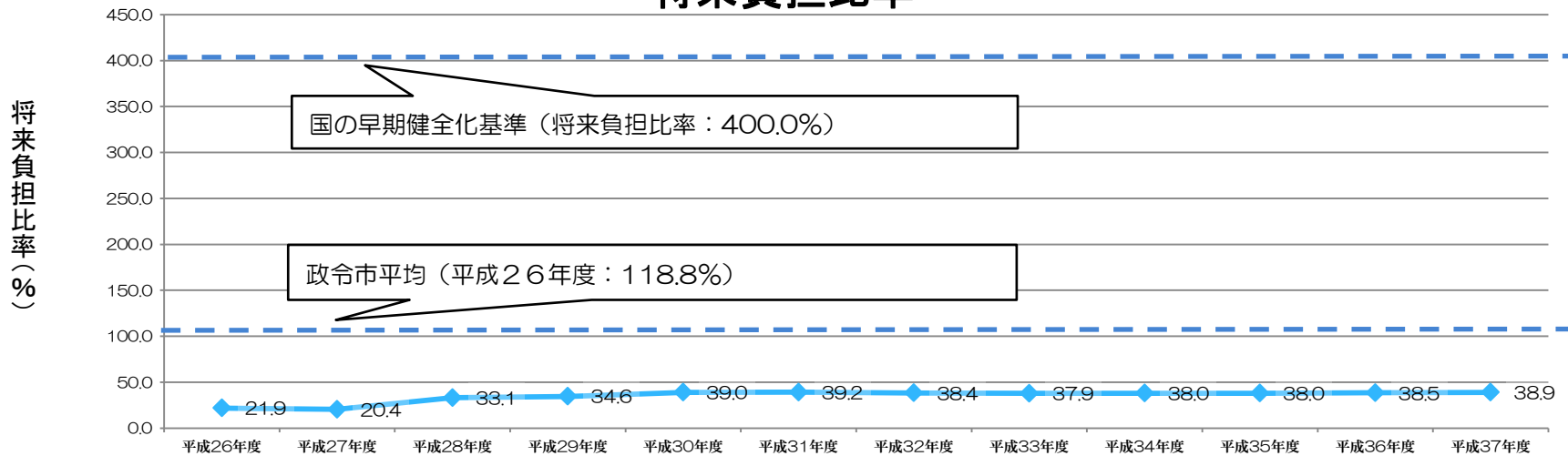
- 財政の健全性は政令市トップクラスの水準を確保
- 総務省が定める早期健全化基準を大幅に下回る見込み

財政指標の推移

実質公債費比率



将来負担比率



④ 前回試算（平成26年2月）との主な相違点

- 歳入は、国の経済財政見通しから、市税、地方譲与税、交付金などが増加
- 歳出は、扶助費や繰出金などの実績の反映により、社会保障関連経費が増加
- 公共施設等総合管理計画に基づく長寿命化により、短期的には修繕・更新費用が増加
- 阪神高速道路大和川線事業の進捗状況などにより、普通建設事業のピークが後年度化し、平成29年度～平成33年度に事業費が集中



収支改善年度は平成31年度から平成32年度に移行

阪神高速道路大和川線事業などの事業費の増加や計画的な更新費用の計上などにより市債残高が増加

【参考】前回（H26.2）の中長期収支見込（平成26年度～平成35年度）

（単位 億円）

	H23【決算】		H24【決算】		H25【予算】		H26【予算】		H27		H28		H29		H30		H31		H32		H33		H34		H35	
	事業費	一般財源	事業費	一般財源	事業費	一般財源	事業費	一般財源	事業費	一般財源	事業費	一般財源	事業費	一般財源	事業費	一般財源	事業費	一般財源	事業費	一般財源	事業費	一般財源	事業費	一般財源	事業費	一般財源
市税	1,326.2	1,326.2	1,309.9	1,309.9	1,297.7	1,297.7	1,304.1	1,304.1	1,287.4	1,287.4	1,283.0	1,283.0	1,284.2	1,284.2	1,269.5	1,269.5	1,279.8	1,279.8	1,291.4	1,291.4	1,280.0	1,280.0	1,284.2	1,284.2	1,288.4	1,288.4
地方交付税	218.8	218.8	272.9	272.9	211.6	211.6	224.0	224.0	207.6	207.6	202.2	202.2	199.9	199.9	203.7	203.7	197.4	197.4	192.7	192.7	194.0	194.0	190.2	190.2	185.5	185.5
市債	582.3	198.7	456.0	207.9	538.3	245.5	678.5	209.0	519.8	219.0	490.1	219.2	424.4	225.5	378.5	237.9	333.1	240.9	302.2	245.5	306.1	255.2	306.5	258.4	304.9	257.9
その他	1,419.0	278.2	1,429.8	272.7	1,615.0	264.1	1,590.4	299.3	1,446.3	315.7	1,479.8	356.7	1,549.0	344.9	1,669.0	354.9	1,667.9	353.4	1,677.9	338.1	1,711.4	353.1	1,723.9	353.6	1,740.3	367.6
歳入合計	3,546.3	2,021.9	3,468.6	2,063.4	3,662.6	2,018.9	3,797.0	2,036.4	3,461.1	2,029.7	3,455.1	2,061.1	3,457.5	2,054.5	3,520.7	2,066.0	3,478.2	2,071.5	3,464.2	2,067.7	3,491.5	2,082.3	3,504.8	2,086.4	3,519.1	2,099.4
人件費	534.8	479.0	508.2	455.0	517.5	458.3	502.8	448.4	509.2	440.2	480.5	441.1	467.6	428.2	464.5	425.1	459.3	419.9	459.3	419.9	459.3	419.9	459.3	419.9	459.3	419.9
うち退職手当	63.3	45.0	47.2	33.4	44.3	29.1	43.9	27.5	53.6	24.0	30.0	30.0	23.5	23.5	24.7	24.7	24.5	24.5	24.5	24.5	24.5	24.5	24.5	24.5	24.5	24.5
うち退職手当を除くもの	471.5	434.0	461.0	421.6	473.2	429.2	458.9	420.9	455.6	416.2	450.5	411.1	444.1	404.7	439.8	400.4	434.8	395.4	434.8	395.4	434.8	395.4	434.8	395.4	434.8	395.4
扶助費	1,040.5	309.3	1,061.9	324.7	1,113.1	348.8	1,148.8	350.0	1,134.6	354.5	1,151.1	358.9	1,174.5	361.8	1,193.1	366.9	1,208.9	371.0	1,225.1	375.1	1,241.8	379.4	1,259.0	383.8	1,277.0	388.4
公債費	325.4	322.1	334.9	331.1	322.6	318.7	311.5	307.5	334.4	327.8	353.0	345.5	337.2	323.9	351.2	338.2	365.9	352.9	358.3	345.3	366.7	353.6	360.7	347.6	364.1	350.7
普通建設事業費	441.0	68.2	503.3	102.9	545.1	24.4	559.1	73.2	426.0	72.3	410.2	80.2	371.2	79.0	431.4	73.1	360.4	65.6	334.2	64.9	330.5	60.1	321.8	57.8	307.3	57.7
その他	1,174.9	813.6	1,036.6	826.0	1,164.3	868.7	1,274.8	857.3	1,073.3	851.3	1,090.4	865.5	1,113.8	868.4	1,081.4	863.6	1,083.4	861.8	1,082.0	857.2	1,089.8	865.9	1,101.4	874.7	1,109.8	881.1
歳出合計	3,516.6	1,992.2	3,444.9	2,039.7	3,662.6	2,018.9	3,797.0	2,036.4	3,477.5	2,046.1	3,485.2	2,091.2	3,464.3	2,061.3	3,521.6	2,066.9	3,477.9	2,071.2	3,458.9	2,062.4	3,488.1	2,078.9	3,502.2	2,083.8	3,517.5	2,097.8
歳入歳出差引額	29.7		23.7		0.0		0.0		▲16.4		▲30.1		▲6.8		▲0.9		0.3		5.3		3.4		2.6		1.6	
単年度収支	0.1		5.7		0.0		0.0		▲16.4		▲30.1		▲6.8		▲0.9		0.3		5.3		3.4		2.6		1.6	
基金残高（定額運用除く） （歳入歳出差引額調整後）	380.9		389.4		334.6		259.7		243.3		213.2		206.4		205.5		205.8		211.1		214.5		217.1		218.7	
市債残高（額債償除く）	2,357.4		2,368.3		2,356.6		2,575.7		2,610.3		2,626.3		2,616.1		2,632.4		2,606.8		2,597.4		2,575.5		2,566.8		2,549.0	
得來負担比率	52.8		36.9		39.6		45.0		47.2		48.3		47.8		48.7		47.1		46.6		45.1		44.4		43.3	
実質公債費比率	4.9		4.9		5.3		5.6		5.8		6.3		6.4		6.2		5.9		6.0		6.0		5.5		5.3	